

# 中国における日本語専攻学習者の日本人イメージ ー日本語学習動機との関連を中心にー

夏 素彦

## 要 旨

本稿では中国における日本語専攻学習者を対象に質問紙調査を行い、彼らの持つ日本人イメージを明らかにし、さらに日本人イメージと学習動機との関連を探った。その結果、日本人イメージについて「開放性」「親和性」「勤勉性」「寛容性」「先進性」「人間関係親密性」の 6 因子が得られた。学年によるイメージの差異については、「勤勉性」イメージは差異が認められず、「開放性」と「先進性」イメージは学年が高くなるにつれて低くなることが明らかになった。日本語学習動機については「日本文化理解」「日本語の向上」「日本語への興味」「日本への憧れ」「日本への留学・就労」「就職の有用性」「日本に関係ある人の存在」の 7 因子が得られ、イメージと学習動機との関連については、「日本への憧れ」と「日本に関係ある人の存在」動機が日本人イメージに正の影響を与えることが示された。

【キーワード】中国、日本語専攻学習者、日本人イメージ、日本語学習動機

## 1. 問題の所在と研究目的

90 年代以来中国では、大学の定員増加という高等学校改革措置の実施に伴い、日本語を専攻とする学習者が急増している<sup>1</sup>。そのような背景のもと、1990 年に教育部によって作成され、2001 年に改定が行われた『高等院校日本語専攻基礎段階教学大綱』がはじめて明確に社会文化理解能力を養成する目標を提出した。これはグローバル化しつつある世界情勢の下で、日本語教育が単に言語知識の習得だけでは社会のニーズを充足しきれないこと、また日本社会、日本文化を理解し、異文化間コミュニケーションの出来る人材を養成することが急務となったためといえる。つまり「中国の日本語教育は『語学訓練型』から『文化理解』へ転換していくことが大きな課題である」(王健宜、国際交流研究所(2002)p18)との指摘と一致している。

異文化間コミュニケーションに影響を与える一要因として相手国の国民に対するイメージがあげられる。社会心理学の対人関係の発達の研究ではミラーとスタインベルグ(Miller, G. & Steinberg, M. 1975)が、その形成初期には相手の行動を予測するのに相手文化および社会に関する情報を多用するが、関係の進展につれ相手個人の心理に関する情報を使うようになると論じている。つまり異文化間対人関係の初期において私たちは、相手を理解しようとして文化的ステレオタイプをあてはめがちである(渡辺 2001)。

この社会心理学の知見からみると、日本語学習者のもつ「日本人はこうである」という日本人イメージが日本人との接触場面において先入観やステレオタイプとして働き、相手に対する正しい理解の妨げになりうることを示唆されている。このことから相手国集団に対するイメージが異文化間コミュニケーションに影響を与える要因として、学習者の日本人イメージを明らかにする必要がある。

日本と日本人に対するイメージをともに取り上げているイメージ研究はこれまで数多くなされてきた。東アジア諸国の人々を対象に行われた研究としては、劉(1998)、鮑戸・原(2000)、加賀美ら(2008、2009)などがあげられる。劉(1998)、鮑戸・原(2000)はメディア特にテレビ報道が日本(人)イメージに与えた影響を注目している。劉(1998)は内容分析と世論調査の結果を用いて中国のメディアが中国人の日本イメージの形成と変化に与える影響を分析した。鮑戸・原(2000)は、韓国、中国の一般国民を対象に世論調査を行い、日本という国に対するイメージを日本イメージと日本人という国民に対する日本人イメージの両方に分けてメディアとの関連を検討した。日本人イメージに関しては、韓国人の日本人イメージは中国人の日本人イメージより複雑で細分化されていることを見出した<sup>2</sup>。

加賀美ら(2008、2009)は韓国、台湾における小・中・高・大学生を対象に 9 分割統合絵画法と質問紙

調査により、日本イメージの形成を探った。その結果として韓国では中学生で最も否定的イメージが形成され、その後大学生まで否定的イメージが固定される。一方、台湾では、小学生から肯定的イメージが形成され、時系列的に変化がないことを明らかにした。これらの結果から同じ東アジアの国、地域であるにも関わらず、歴史的背景の違いや、政治的・外交的状況の変化などによって、日本イメージに差があることが示唆された。

一方、人的交流が盛んな時代背景の下に日本人イメージだけを扱う研究もこれまで数多く行われてきた。在日留学生の日本人イメージの研究として、岩男・萩原(1991)が挙げられる。岩男・萩原(1991)は日本の留学制度を改善することを目的とし、1975年と1985年に二回にわたって在日留学生を対象に一連の調査を行った。SD法<sup>3</sup>を用いた質問紙調査により留学生の日本人に対するイメージとして「親和性」「勤勉性」「信頼性」「先進性」という4つの因子が抽出され、また滞日期間及び日本語能力によるイメージの違いが明らかにされた。

近年、東アジア諸国の人々を対象に行われた日本人イメージの研究として、李(2006)、呉(2005)、呉(2008)などが挙げられる。李(2006)は北京にある5つの大学の大学生を対象にSD法で日本人イメージに関する調査を行った結果、「勤勉性」「誠実性」「社交性」「先進性」「平等性」「開放性」「前衛性」「民族性」という8因子が抽出され、そのうち、「誠実性」「社交性」「平等性」が中国人の日本人好感度に影響を及ぼしていることが示された。

呉(2005、2008)は韓国の大学における日本語学習者と非学習者を対象に調査し、両者の間の日本人イメージの違いを明らかにした。呉(2008)は自由記述による質問紙調査の結果として、学習者が持ちやすい日本人イメージに「二面的、本心がわからない」「親切、やさしい」「気が小さい、消極的、静か」を挙げている。呉(2005)は、5段階評定の質問紙調査で因子分析をした結果、「消極的」「利己的」「用意周到的」「配慮的」「集団的」「個性的」の6因子が抽出され、学習者は非学習者より「配慮的」イメージが高いことを明らかにした。また、個人属性との関連については、日本語能力が高い学習者ほど、「配慮的」イメージを持ちやすく、学習歴が長い学習者ほど「利己的」イメージを持ちやすいことが明らかにされた。日本人イメージへの影響要因として

韓国のマスメディア、直接経験、統合的学習動機などが見出された<sup>4</sup>。統合的動機は「利己的」イメージを弱め、「配慮的」イメージを強めることが示され、学習動機が日本人イメージに影響を及ぼすことが示唆された。

一方、日本語学習動機の研究を概観すると、従来の日本語学習動機の研究は、学習者の日本語習得に影響を与える情意要因の重要な面と考えられ、学習成績や学習効果との関連に目を向けている。海外で行われた日本語学習動機に関する調査研究としては縫部ら(1995)、成田(1998)、郭・大北(2001)などがあげられる。縫部・狩野・伊藤(1995)は、ニュージーランドの大学生を対象に、成田(1998)はタイの大学生を対象に、郭・大北(2001)はシンガポールの華人大学生を対象に学習動機と成績の関係について調査した。中国における日本語の学習動機に関する研究は緒についたばかりで、彭・王(2003)、王(2005a、2005b)、蔣(2006)などの研究があるが、まだ数多くない。しかもいずれも総じて学習動機の実態を明らかにすることにとどまっている。

以上の海外での日本語学習動機の研究では、学習動機の構造の解明や日本語学習成績との関連を見るものがほとんどだったが、日本語学習動機と日本人イメージとの関連を追求したものは、ほとんどみられない。呉(2005)では、日本人イメージに影響を与えている要因に日本語学習動機も取り上げられているが、その限界として単純に道具的動機と統合的動機に二分されており、必ずしも学習者の複雑な学習動機を反映していないことから、さらに精緻化する必要があると思われる。たとえば、近年、中国においては日本の大衆文化の影響が大きく、その影響を受けて日本語を勉強している学習者も少なからずいる(蔣庆荣 2006)<sup>5</sup>。日本の大衆文化に興味を持って日本語を勉強している学習者とそうでない学習者とを比べると、日本や日本人に対する関心や注目する観点や接触する情報では異なるので、日本人に対するイメージも違ってくるのが推測される。そこで、本研究は中国の大学で日本語を専攻している学習者を対象とし、日本語学習動機を日本人イメージに影響を与える要因として取り上げ、どのような学習動機がどのような日本人イメージの形成に影響を及ぼすかを明らかにすることを目的とする。

なお、本研究では異文化間コミュニケーションにおいて相手国民に対するイメージが先入観として働

き、その接触に影響を与えうるという問題意識から日本人イメージだけを扱う。日本語専攻学習者を対象とした理由は、日本語専攻では文化理解という教育目標が掲げられていることと専攻学習者は日本、日本人との関わりが強いことに加え、日本人教師や日本人留学生との接触が多く、日本人との対話や相互理解の意味が大きいと思われるからである。

## 2. 研究課題と研究方法

### 2.1 研究課題

先行研究の検討から中国における日本語専攻学習者の持つ日本人イメージと学習動機との関連を探ることを目的とする。また、先行研究(岩男ら 1991、呉 2005)の結果では日本語学習歴と日本語能力が日本人イメージに影響を及ぼすことが示されているため、本研究では学習歴と日本語能力の両方と高い関連のある学年という属性を取り上げ、それによる日本人イメージの差異も明らかにしたい。よって以下の研究課題を定める。

研究課題 1 中国人日本語専攻学習者はどのような日本人イメージを持っているか。

研究課題 1-1 学年によって日本人イメージに違いがあるか。

研究課題 2 中国人日本語専攻学習者はどのような学習動機を持っているか。

研究課題 3 日本人イメージと学習動機とはどのような関連があるか。

### 2.2 研究方法

本研究は中国人日本語専攻学習者の日本人イメージの全体像と構造を把握するため質問紙による量的研究の方法を採用する。

#### 2.2.1 質問紙の作成

予備調査として中国の大学で学ぶ日本語学習者 10 名を対象に、日本語学習動機、及び日本人教師や日本人留学生との接触や日本人イメージに関する半構造化インタビューを行った。本研究において採用した日本人イメージの項目は岩男・萩原(1991)、李(2006)、呉(2003)で用いられた質問項目を参考にし、さらに予備調査の結果を加えた 44 項目を SD 法 7 段階評定で作成した。形容詞対を理解しやすくするためにポジティブな項目を左側に配列し、最大値「7」とし、反対のネガティブな項目を右側に配列し、最小値「1」とした。つまり数字が高いほど評価が肯定的になる。日本語学習動機の項目は縫部

ら(1995)、王(2003)、蔣(2006)を参考にし、さらに予備調査の結果を踏まえて 36 項目を 5 段階評定で作成した。そのほかに日本人関連の情報源の項目と日本人との接触の項目も付け加えた。質問の最後にフェイスシートを添付し、性別、年齢、学年、日本語学習歴、日本への渡航歴、日本語能力試験受験の有無、そして日本語能力についてたずねた。量的調査を補うために最後に「あなたの日本人イメージに影響を与えているものは何だと思いますか。それはなぜですか。」という自由記述の質問を付け加えた。日本語から中国語への翻訳にあたっては、言語のニュアンスを考慮し、質問の意図が的確に伝わるように、日本の大学の博士後期課程で日本語教育を専攻する中国人留学生 2 名の協力を得て翻訳してもらい、筆者の翻訳と対照し、最終的な中国語版質問紙を作成した。

#### 2.2.2 調査時期・対象者・調査方法

本調査は、2008 年 11 月上旬に北京の A 大学と河北省の B 大学と C 大学の日本語学科 1 年生から 4 年生までの 504 名の日本語学習者を対象に行った。調査方法は大学の事情がそれぞれ違うことで A、C 大学で留置法をとったが、B 大学では授業の際に配布し、筆者がその場で回収した。最終的に 492 部回収できたが、そのうち回答を著しく欠いたものを除き、有効回答数は 434 部になった(有効回答率 86.1%)。対象者の平均年齢は 20.5 歳で、学年別では 1 年生 117 名、2 年生 106 名、3 年生 111 名、4 年生 100 名であった。属性は表 1 に示す。

表 1. 対象者の属性

① 性別	男	98 名 (22.6%)	② 学年	1 年生	117 名 (27.0%)
	女	336 名 (77.4%)		2 年生	106 名 (24.4%)
				3 年生	111 名 (25.6%)
				4 年生	100 名 (23.0%)
③ 年齢	17 歳～24		④ 所属 大学	A 大学	194 名 (44.7%)
	平均年齢: 20.5 歳			B 大学	141 名 (32.5%)
				C 大学	99 名 (22.8%)

## 3. 結果と考察

### 3.1 日本人イメージの結果と考察

#### 3.1.1 日本人イメージの因子分析結果

中国人日本語専攻学習者の日本人イメージの構造を明らかにするために日本人イメージに関する 44 項目について因子分析を行った。主因子法で初期解を求めた後、固有値 1 以上の因子の数を決め、プロマックス回転を行った。各因子において .35 以上の

表 2. 日本人イメージの因子分析の結果

	第1因子 開放性	第2因子 親和性	第3因子 勤勉性	第4因子 寛容性	第5因子 先進性	第6因子 人間関係 親密性
はっきり言うーはっきり言わない	<b>0.880</b>	-0.044	0.026	-0.058	-0.030	-0.071
話し方が直接的だー話し方が婉曲的だ	<b>0.846</b>	-0.106	-0.029	-0.159	-0.113	0.152
本心がわかるー本心がわからない	<b>0.707</b>	-0.023	0.055	0.149	-0.042	-0.004
感情を出すー感情を出さない	<b>0.657</b>	0.040	-0.029	-0.108	0.044	0.127
考えがわかりやすいー考えがわかりにくい	<b>0.604</b>	0.165	0.067	0.103	-0.161	-0.140
気前がよいーけちな	<b>0.566</b>	0.036	0.002	0.182	0.144	-0.144
形式的でないー形式的	<b>0.549</b>	-0.069	-0.007	-0.050	0.160	0.147
融通のきくー融通のきかない	<b>0.483</b>	0.244	-0.092	0.075	0.203	-0.254
親しみやすいー親しみにくい	0.011	<b>0.905</b>	-0.095	0.000	0.012	-0.034
友達になりやすいー友達になりにくい	0.068	<b>0.784</b>	0.082	-0.030	-0.068	0.015
コミュニケーションをとりやすいーコミュニケーション をとりにくい	-0.003	<b>0.778</b>	0.035	-0.025	0.029	0.074
温かいー冷たい	-0.023	<b>0.750</b>	0.063	-0.149	0.038	0.154
親切なー不親切な	-0.064	<b>0.726</b>	-0.052	0.253	-0.015	-0.076
真面目ー不真面目	0.075	0.003	<b>0.806</b>	-0.067	-0.124	-0.074
規律を守るー規律を守らない	0.054	0.029	<b>0.697</b>	-0.019	-0.169	0.058
時間厳守なー時間にルーズな	0.066	-0.168	<b>0.641</b>	0.077	0.145	0.000
勤勉なー怠惰な	-0.033	0.007	<b>0.639</b>	-0.019	0.086	0.008
責任感があるー責任感がない	-0.137	0.113	<b>0.492</b>	0.179	-0.098	0.094
細かいー大雑把	-0.068	-0.049	<b>0.489</b>	0.132	0.242	-0.219
向上的ー退廃的	-0.020	0.218	<b>0.472</b>	-0.153	0.165	0.066
やさしいーこわい	-0.089	0.050	0.053	<b>0.750</b>	0.042	-0.040
誠実なー狡猾な	0.070	-0.181	0.141	<b>0.699</b>	0.002	0.063
平和的ー好戦的	0.026	0.003	-0.107	<b>0.682</b>	-0.062	0.126
偏見がないー偏見がある	0.049	0.133	-0.018	<b>0.396</b>	-0.047	0.349
心の広いー心の狭い	0.177	0.159	-0.020	<b>0.387</b>	-0.012	0.236
人に対して配慮するー人に対して配慮しない	-0.091	0.106	0.136	<b>0.374</b>	-0.062	0.005
考えが新しいー考えが古い	-0.080	0.008	0.058	-0.004	<b>0.728</b>	0.088
能力主義ー身分主義	0.086	0.005	0.012	-0.070	<b>0.636</b>	-0.042
独創的ー模倣的	0.109	-0.048	-0.015	0.027	<b>0.478</b>	0.323
家族中心ー仕事中心	-0.049	0.028	-0.031	0.101	0.021	<b>0.488</b>
人間関係が濃密なー人間関係が表面的な	0.071	0.156	0.015	0.037	0.117	<b>0.473</b>
クロンバック $\alpha$ 係数	.876	.901	.800	.800	.700	.528
累積寄与率	26.8	36.9	42.9	46.0	48.4	50.4

因子負荷量を示すものを基準に因子の解釈を行い、負荷量の低いものや複数の因子にまたがって負荷量が高いもの、また解釈の可能性を考慮して 13 項目を削除し再び因子分析を行った結果、6 因子が抽出された。

第 1 因子は「はっきり言うーはっきり言わない」「話し方が直接だー話し方が婉曲的だ」「本心がわかるー本心がわからない」などの 8 項目からなり、人に対してどれほど自己開示するかを表すことから「開放性」と命名した。第 2 因子は「親しみやすいー親しみにくい」「コミュニケーションをとりやすいーコミュニケーションをとりにくい」などの 5 項目からなり、人に対する親近感を示すことから「親和性」と命名した。第 3 因子は「真面目ー不真面目」「勤勉なー怠惰な」などの 7 項目からなり、真面目さ、勤勉さを示すことから「勤勉性」と命名し

た。第 4 因子は、「やさしいーこわい」「誠実なー狡猾な」「平和的ー好戦的」「偏見がないー偏見がある」などの 6 項目からなり、人間の包容力を示すことから「寛容性」と命名した。第 5 因子は「考えが新しいー考えが古い」「能力主義ー身分主義」「独創的ー模倣的」の 3 項目からなり、考えが新しく、先進的な価値観を示すことから「先進性」と命名した。第 6 因子は「家族中心ー仕事中心」「人間関係が濃密なー人間関係が表面的な」の 2 項目からなり、家族重視、人間関係の親密さを示すことから「人間関係親密性」と命名した。

### 3.1.2 日本人イメージの因子の平均値の結果

中国人日本語専攻学習者の日本人イメージは以上のように 6 因子から構成され、各因子の平均値の結果は図 1 に示すとおりである。そのうち、「勤勉性」イメージは平均値が 5.89 で、一番高く評価さ



れている。次いで「先進性」イメージが平均値 4.51、「親和性」イメージが平均値 4.37 となっており、正の評価をしている。「寛容性」イメージは平均値が 4.16 で、「人間関係親密性」イメージは平均値が 4.05 で、ニュートラルとなっている。一番低く評価されているイメージは「開放性」で、平均値は 3.16 だった。全体からみれば「開放性」は厳しく評価されているものの、概ね肯定的に評価されていることが明らかになった。

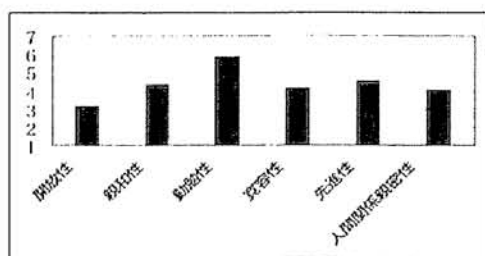


図 1. イメージの 6 因子の平均値

### 3.1.3 日本人イメージの学年による差異の研究結果

学習者間の日本人イメージの差異を検討するために、日本人イメージの 6 因子の下位尺度に含まれる項目の単純加算平均値を尺度得点とし算出して、それを従属変数とし、学年を独立変数として、一元配置の分散分析を行い、違いが見られた因子について Turkey(T)による多重比較を行った。その結果は図 2 に示したとおりである。

学年による差異が有意であったのは「開放性」( $F=26.00, p<.001$ )、「親和性」( $F=3.31, p<.05$ )、「寛容性」( $F=5.31, p<.001$ )、「先進性」( $F=19.11, p<.001$ )「人間関係親密性」( $F=2.76, p<.05$ )の 5 因子である。

多重比較の結果、「開放性」イメージは 1 年生( $M=3.72$ )、2 年生( $M=3.44$ )は 3 年生( $M=2.72$ )、4 年生( $M=2.66$ )より有意に高かった。

「親和性」イメージは、1 年生( $M=4.57$ )は 3 年生( $M=4.13$ )より有意に高く、2 年生( $M=4.48$ )と 4 年生( $M=4.24$ )は 1 年生と 3 年生の中間値であった。

「寛容性」イメージは、2 年生( $M=4.45$ )は 1 年生( $M=3.99$ )と 3 年生( $M=3.97$ )より有意に高く、4 年生( $M=4.21$ )はその中間値であった。

「先進性」イメージは「開放性」イメージの結果と同様に 1 年生( $M=5.01$ )、2 年生( $M=4.79$ )は 3 年生( $M=4.24$ )、4 年生( $M=3.91$ )より有意に高かった。

「人間関係親密性」イメージは、「親和性」イメージの結果と同様に、1 年生( $M=4.26$ )は 3 年生

( $M=3.77$ )より有意に高く、2 年生( $M=4.08$ )と 4 年生( $M=4.05$ )は 1 年生と 3 年生の中間値であった。

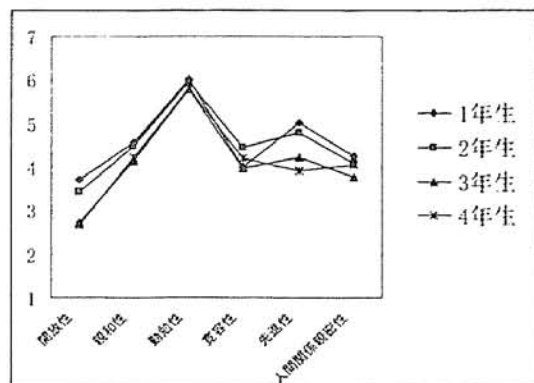


図 2. イメージの学年による差異

### 3.1.4 日本人イメージと学年による差異の考察

日本人イメージに対する因子分析の結果、「開放性」「親和性」「勤勉性」「寛容性」「先進性」「人間関係親密性」の 6 因子が得られた。そのうち、「勤勉性」イメージは平均値が 5.89 で最も高く、しかも分散分析の結果、学年による差異も認められなかった。つまり、学年と関係なく高く評価されていることが示された。質問紙の最後の自由記述には、日本人の真面目さ、仕事に対する謹厳さに敬服する、それは、今の中国に欠けている精神であるというような記述が多く見られ、「勤勉性」を高く評価していることがわかる。「先進性」イメージは平均値が 4.51 で二番目に高く評価されていて、1, 2 年生が 3, 4 年生より高かった。それは、低学年の方が日本人に対して「考えが新しい」「能力主義」「独創的」を高く評価しているが、高学年の方がこの側面において低く評価していることを表わしている。学年が高くなるにつれて「先進性」に対する評価が低くなるのは、情報の拡大により、日本人について「考えがふるい」「身分主義」「模倣的」といったネガティブな情報と接した結果ではないかと推測できる。「親和性」「寛容性」「人間関係親密性」はいずれも平値 4 と 5 の間で、ニュートラルとなっているが、「親和性」と「人間関係親密性」については、1 年生が 3 年生より高く、「寛容性」については、2 年生が 1, 3 年生より高いことが示された。また平均値から見れば、4 つの学年で 3 年生が「親和性」「寛容性」「人間関係親密性」について 1 番低く評価していることが示された。それは次のことが考えられる。3 年生では日本語を勉強するにつれ、また、日本人教

師や日本人留学生と接触するにつれて、理解できない部分が増えていき、もどかしさを感じているのではないかと推測できる。3年生の自由記述を見ると、「日本人と接触する過程でつくづく感じたのは、お互いにやり方が違って、まったく相容れないことだ」「テレビ、新聞、インターネットなどを通じて、日本という民族の多くの思想や考え方が私には理解しがたいと感じている」などが挙げられている。なぜ4年生が3年生より若干高くなったかについてはある程度の慣れと理解によるものと推測されるが、今後の課題として詳しいインタビューを行い、検証をしたいと思う。

イメージの6因子のうち、「開放性」が全体的に1番低く、否定的に評価されている。しかも学年が高くなるにつれてより低くなる。それについては、呉(2008)では、韓国在住の韓国人大学生の日本語学習者の一番持ちやすいイメージとして「二面的、本心がわからない」を挙げている。本研究の、中国の専攻学習者においても日本人は分かりにくいというイメージを持っているという結果となった。自由記述でも高学年では「日本人の曖昧な言葉(は)、とてもわかりにくい(ので)困る」「最もたまらないのははっきり言わないことだ」「(日本人は)婉曲的だ。日本語の言葉の表現からわかる」などの記述が見られ、低学年には見られなかった。このことから日本人の曖昧さが「開放性」イメージの低さにつながっているのではないかと推測できる。

### 3.2 日本語学習動機の分析結果

中国人日本語専攻学習者の日本語学習動機の構造を明らかにするために日本語学習動機に関する36項目について因子分析を行った。主因子法で初期解を求めた後、固有値1以上の因子の数を決め、プロマックス回転を行った。各因子において.35以上の因子負荷量を示すものを基準に因子の解釈を行い、負荷量の低いものや複数の因子にまたがって負荷量が高いもの7項目を削除し、繰り返し因子分析を行った結果、7因子が抽出された。因子分析の結果は次頁の表3に示したとおりである。

第1因子は「異文化の相違に興味があるから」「日本社会や日本人の考え方に興味があるから」などの7項目からなり、日本文化、習慣、文学などに対する興味を示すことから「日本文化理解」と命名した。第2因子は「日本語の試験でいい成績をとりたいたから」「日本語学習で人より優れたいたから」な

どの5項目からなり、日本語の試験や日本語の上達を目指すことから「日本語の向上」と命名した。第3因子は「好きではないけれど、勉強しなければならないから」「自分が選んだのではなく、日本語科に配属されたから」「自分の専攻だから、勉強しなければならないから」「日本語の勉強が好きだから」「日本語に興味があるから」といった5項目からなり、前の3項目は負の負荷を示しており、日本語の勉強が好き、日本語に興味があるということから、「日本語への興味」と命名した。第4因子は「日本の歌が好きだから」「日本の映画、テレビドラマが好きだから」などの5項目からなり、日本の大衆文化が好き、日本に旅行したい、日本人と交流したいなど日本への憧れを示すことから「日本への憧れ」と命名した。第5因子は「日本に留学に行きたいから」「日本で働きたいから」の2項目からなり、日本へ行って留学したり、働いたりしたいことから「日本への留学・就労」と命名した。第6因子は「英語のできる人が多くて、就職の競争が激しいから」「就職に有利だから」の2項目からなり、就職の有利性を図り、実用的な目的を示すことから「就職の有用性」と命名した。第7因子は「日本に親戚や友達がいるから」「日本語がわかる人に影響されたから」の2項目からなり、日本に関係ある人の影響を受けたことから「日本に関係ある人の存在」と命名した。

日本語専攻学習者の学習動機は「日本語の興味」、「日本語の向上」「日本への憧れ」、「日本への留学・就労」「就職の有用性」、「日本に関係ある人の存在」の7因子が抽出され、それぞれが日本語を勉強する原動力となっていることがわかる。

### 3.3 日本人イメージと日本語学習動機との関連

#### 3.3.1 日本人イメージと日本語学習動機との関連の分析結果

日本語学習動機が日本人イメージにどう影響を与えているかを検討するために日本人イメージの6因子のそれぞれの下位尺度得点を従属変数とし、日本語学習動機の7因子と学年を独立変数として強制投入法で重回帰分析を行った。学年によるイメージの差異が顕著であることに加え、対象者の殆どは大学入學後日本語を勉強し始め、学年は日本語学習歴、日本語能力と高い相関を持っていることを考慮し、学年が日本人イメージを予測する重要な要因と思われることから学習動機のほかに学年を独立変数とし

表3. 日本語学習動機の因子分析の結果

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7
第1因子: 日本文化理解							
異文化間の相違に興味があるから	<b>0.850</b>	0.022	-0.003	-0.119	-0.027	0.005	-0.014
日本社会と日本人の考え方に興味があるから	<b>0.767</b>	-0.061	-0.025	0.041	-0.028	0.028	-0.076
日本文化に興味があるから	<b>0.696</b>	-0.184	-0.095	0.135	0.101	-0.050	0.138
日本人の習慣が知りたいから	<b>0.667</b>	-0.018	0.011	0.112	-0.001	0.083	-0.156
たくさんの知識を得ることができ、視野を広めることができるから	<b>0.666</b>	0.082	-0.060	-0.138	-0.010	0.163	-0.090
日本の新聞、雑誌や小説を読みたいから	<b>0.526</b>	0.124	-0.076	0.168	0.027	-0.145	0.129
日本文学に興味があるから	<b>0.418</b>	-0.113	0.042	0.211	-0.025	-0.090	0.212
第2因子: 日本語の向上							
日本語の試験でいい成績をとりたいから	-0.110	<b>1.013</b>	-0.161	0.040	-0.138	-0.040	0.143
日本語学習で人より優れたから	-0.037	<b>0.766</b>	0.072	-0.065	0.049	0.004	0.045
日本語能力試験に合格したいから	-0.002	<b>0.664</b>	-0.279	0.061	0.077	0.113	-0.049
日本語を自由に運用できるようになりたいから	0.020	<b>0.525</b>	0.219	0.141	-0.028	-0.085	-0.160
日本語がもっと上手になりたいから	0.170	<b>0.515</b>	0.056	-0.146	0.259	-0.026	-0.210
第3因子: 日本語への興味							
好きではないけれど、勉強しなければならぬから	0.057	0.042	<b>-0.961</b>	0.016	0.009	0.029	0.044
自分が選んだのではなく、日本語科に配属されたから	0.087	0.111	<b>-0.746</b>	0.008	0.048	-0.251	0.087
自分の専攻だから勉強しないと卒業できないから	0.046	0.182	<b>-0.651</b>	0.027	-0.133	0.209	0.081
日本語の勉強が好きだから	0.184	0.092	<b>0.586</b>	0.086	0.022	-0.017	0.106
日本語に興味があるから	0.220	0.157	<b>0.511</b>	0.076	-0.073	0.066	0.153
第4因子: 日本への憧れ							
日本の歌が好きだから	0.056	0.035	-0.081	<b>0.807</b>	-0.116	0.008	-0.058
日本の映画、テレビドラマが好きだから	0.065	-0.064	-0.013	<b>0.590</b>	-0.018	0.029	-0.053
日本人と交流したいから	0.063	0.164	0.076	<b>0.509</b>	0.041	-0.060	-0.035
日本企業に就職したいから	-0.169	-0.076	0.016	<b>0.483</b>	0.274	0.229	-0.077
日本の漫画、アニメが好きだから	0.001	0.019	0.089	<b>0.427</b>	-0.158	-0.147	0.016
日本に旅行したいから	0.071	0.064	-0.039	<b>0.402</b>	0.248	0.066	0.042
第5因子: 日本への留学・就労							
日本に留学に行きたいから	0.048	0.019	0.020	-0.157	<b>0.932</b>	-0.110	-0.075
日本で働きたいから	-0.107	0.134	0.114	0.045	<b>0.420</b>	0.100	0.233
第6因子: 就職の有用性							
英語のできる人は多すぎて就職の競争が激しいから	-0.013	-0.047	-0.071	0.026	-0.041	<b>0.691</b>	0.061
就職に有利だから	0.133	0.132	0.146	-0.127	-0.073	<b>0.575</b>	0.084
第7因子: 日本に関係ある人の存在							
日本に親戚や友達がいるから	-0.030	0.031	-0.097	-0.074	0.076	-0.021	<b>0.633</b>
日本語がわかる人に影響されたから	0.027	-0.011	-0.046	-0.023	0.047	0.186	<b>0.564</b>
クワンバック $\alpha$ 係数	.855	.835	.825	.739	.665	.544	.604
累積寄与率%	28.2	35.4	40.1	44.2	46.8	49.0	51.0

表4. イメージを従属変数、動機と学年を説明変数とした重回帰分析の分析結果

	開放性	親和性	勤勉性	寛容性	先進性	人間関係親密性
日本文化理解	0.019	0.116	0.122	0.123	0.063	0.069
日本語の向上	-0.019	-0.007	-0.003	0.007	-0.023	-0.007
日本語への興味	-0.017	0.007	0.103	0.059	0.058	-0.085
日本への憧れ	0.093	0.177**	0.224***	0.185**	0.187**	0.284***
日本への留学・就労	-0.046	-0.008	-0.093	-0.064	0.016	-0.064
就職の有用性	-0.029	-0.026	0.124*	-0.065	0.014	-0.029
日本に関係ある人の存在	0.093*	0.142**	0.059	0.169***	0.160***	0.130**
学年	-0.393***	-0.092	-0.054	0.091	-0.284***	-0.057
R <sup>2</sup>	0.198***	0.111***	0.148***	0.115***	0.212***	0.103***

\*\*\* p&lt;.001    \*\* p&lt;.01    \* p&lt;.05

て用いた<sup>6</sup>。重回帰分析の結果を表4に示す。

表4の重回帰分析の結果から、日本人イメージの第1因子の「開放性」については、日本語学習動

機の「日本に関係ある人の存在」と「学年」が有意に影響を及ぼすことが示された。これは、家族や友達が日本と関わっており、かつ学年が低いほど学習

者の持つ「開放性」イメージがより高いといえる。第2因子の「親和性」については「日本への憧れ」「日本に関係ある人の存在」が影響していることが示されている。このことから日本に憧れており、家族や友達が日本と関わっている学習者は日本に対する「親和性」イメージがより高いと言える。第3因子の「勤勉性」には、「日本への憧れ」「就職の有用性」が有意に影響していることが示された。つまり、日本に憧れていて、就職の有用性を重視する学習者は、「勤勉性」イメージも高く持つといえる。第4因子の「寛容性」は「日本への憧れ」「日本に関係ある人の存在」から有意に影響を受けていることが示された。このことから、日本に憧れており、家族や友達が日本と関わっている学習者は日本人に対する「寛容性」イメージも高いと考えられる。第5因子の「先進性」は「日本への憧れ」「日本に関係ある人の存在」と「学年」から影響を受けていることがわかった。学年が低く、かつ日本に憧れており、家族や友達が日本と関わっている学習者は日本人に対する「先進性」イメージも高いことが示された。第6因子の「人間関係親密性」は「日本への憧れ」「日本に関係ある人の存在」から影響を受けていることが有意に認められた。つまり日本に憧れており、家族や友達が日本と関わっている学習者は日本人に対する「人間関係親密性」イメージも高くなることがわかった。

#### 4. まとめと総合的考察

本研究では、今までに明らかにされていなかった中国における日本語専攻学習者の持つ日本人イメージの構造を明らかにした。その結果、「開放性」「親和性」「勤勉性」「寛容性」「先進性」「人間関係親密性」という6因子が得られた。そのうち「勤勉性」については最も高く評価されており、その次に「先進性」「親和性」「寛容性」「人間関係親密性」の順となっており、肯定的な評価をされているが、「開放性」は一番低く、否定的な評価がされているのである。また学年による差異を検討した結果、「勤勉性」イメージだけ、学年による差異が認められなかったが、学年が高くなるにつれて「開放性」と「先進性」イメージが低くなることが示された。

次に日本語学習動機について「日本文化理解」「日本語の向上」「日本語への興味」「日本への憧れ」「日本への留学・就労」「就職の有用性」「日本

に関係ある人の存在」の7因子が得られた。日本人イメージと日本語学習動機の関連として「日本への憧れ」と「日本に関係ある人の存在」動機が日本人イメージに正の影響を与えていることが示された。つまり「日本語がわかる人に影響されたから」「日本に親戚や友人がいるから」、日本の大衆文化が好き、日本人と交流したいという理由で日本語を勉強している学習者は「親和性」「寛容性」「先進性」「人間関係親密性」において日本人に好意的に評価しているといえる。

それでは、なぜ「日本に関係ある人の存在」「日本への憧れ」動機をもつ学習者は「親和性」「寛容性」「先進性」「人間関係親密性」という日本人イメージを高く評価しているのであろうか。

「日本に関係ある人の存在」動機は、中国における日本語専攻学習者の一部が日本にいる親戚や友人から影響を受けて日本語を勉強していることを表している。その背景には、日本に留学や仕事で滞在する中国人が多くいるということがある<sup>7</sup>。岡田(2001)によると中国社会は人間関係重視の社会と指摘されている。親戚や友人が信頼を置ける人であり、そのような縁故関係(瀬川 1997: p79)を持つ学習者にとっては、日本や日本人がより身近な存在となる。また、日本人に対するイメージは国内の歴史教育や過去の不幸な歴史の影響の一方的なものから脱し、親戚や友人の口伝えの情報で現代の日本、日本人イメージに触れやすくなるのではないかと推察できる。中国社会科学院日本研究所が2006年に中国国民に実施した世論調査の結果、日本に対する親近感を持つ理由は「日本に留学や訪問したことがあるから」「家族や友人が日本にいるから」「日本の友人がいるから」という理由があわせて36.3%を占め(蔣立峰 2006)、このような人的交流が日本に対する親近感を感じる重要な理由であることがわかり、それは本研究の「日本に関係ある人の存在」動機が日本人に好意的なイメージが生じやすいことも裏付けている。「日本への憧れ」動機はその背景に日本のアニメ、ドラマ、歌といった大衆文化が中国の若者に大変人気があることである。国際交流研究所が実施したアンケート調査によると、中国で日本語を勉強している学生の16.2%が「日本語学習のきっかけ」として「日本の漫画、アニメ、テレビドラマ、ゲーム、映画、歌などが好き」だからと回答している(国際交流研究所 2002)。日本大衆文化の視聴により、日



本に対する憧れや親近感が生ずることは、長谷川(2007)の研究で説明できると思われる。長谷川(2007)では日本の視聴者においては韓国製テレビドラマ視聴により韓国への心理的距離の縮小、韓国人イメージの改善につながったという「感情移入的視聴」を研究してきたが、日本語学習者においても同様な現象が起きていると考えられる。

本研究では「日本に関係ある人の存在」と「日本への憧れ」動機をあわせもつ中国人日本語専攻学習者は日本人イメージの評価が高くなることを明らかにした。これは人的交流、異文化接触と日本の歌、テレビドラマ、漫画、アニメという日本大衆文化などのマスメディアが学習者の日本人イメージ形成に肯定的影響を与えていることが考えられる。このことから直接交流と日本大衆文化などのマスメディアを介した接触が日本人イメージの改善につながっていることが示唆された。異文化理解と異文化間コミュニケーションを目指す日本語教育においても人的交流と日本大衆文化を取り入れ、活用する必要性があると思われる。

## 5. 今後の課題

本稿では中国における日本語専攻学習者を対象に日本人イメージと日本語学習動機の両者の構造と両者の関連を明らかにした。今後の課題としては日本関連の情報源、日本人との接触を取り上げ、それらが日本人イメージに与える影響を検討したい。また、インタビューによる質的調査を行い、量的質問紙調査を補足し、中国人日本語学習者の持つ日本人イメージを全面的に深く解明していきたいと考えている。

## 注

1. 中国日本語教学研究会の統計によると、中国では日本語専攻を設けている大学は93年までで80校、98年までで114校であった。2001年に124校に増え、学習者は12,300人となった。2003年には250校に、2006年には358校に増え、学習者が17万人を超えていると言われている。宿久高(中国日本語教学研究会会長)『中国における日本語教育と課題』  
<http://aichigakuin.ac.jp/~molihua/2006Qinghua/kityouhoukoku.doc> (2008年11月28日参照)  
なお本稿では日本語を専攻とする学習者のことを日本語専攻学習者と称する。
2. 鮑/・原(2003)では、韓国人の日本人イメージは7次元にも分化しており、かなり明確で、多次元的なイメージであるが、中国人の日本人イメージは単純な3次元構造であることを報告している。

元構造であることを報告している。

3. SD法: Semantic Differential method の略語で、心理学的測定法の一つである。ある事柄に対して個人が抱く印象を対極な意味を持つ形容詞の対を用いて測定するもので、5段階、7段階などの評定で対象事項の意味構造を明らかにしようとするものである。
4. 統合的学習動機: Gardner & Lambert(1959)は、第二言語の学習者の学習動機を統合的動機と道具的動機に分類している。統合的動機とは、目標言語社会についてもっと知るため、もしくは目標言語話者と交流するために第二言語を学習することを意味し、道具的動機とは、より実用的な理由から第二言語を学習することを意味する。
5. 蔣庚榮(2006)では、2005年に中国の淮海工業学院日本語科学生268名を対象に日本語学習動機に関する質問紙調査を行った結果、「情報交流」「文化」「興味」「娯楽」「試験競争」「留学・就労」「現実」「勉強しやすさ」の8因子が得られ、そのうち、「娯楽」動機は、日本のアニメ、漫画、映画、ドラマ、ゲーム、歌が好きだからの項目からなり、分散の8.6%を占めている。
6. 学年と学習歴の Pearson 積率相関係数=.821( $p<.001$ )で、学年と日本語能力の相関係数=.796( $p<.001$ )で強い正の相関を示している。
7. 日本法務省入国管理局の統計によると、平成20年末現在、日本における外国人登録者数は2,217,426人であり、そのうち、中国が655,377人で全体の29.6%を占め、一位を占めている。法務省入国管理局ホームページ:  
[http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/press\\_090710-1\\_090710-1.html](http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/press_090710-1_090710-1.html) (2010年5月8日参照)

## 参考文献

- 鮑/弘・原由美子(2000)「相手国イメージはどう形成されているか—日本・韓国・中国世論調査から」『放送研究と調査』8月号、56-93。
- 岩男美寿子・萩原滋(1991)『日本で学ぶ留学生—社会心理学分析』勁草書房
- 岩下豊彦(1983)『SD法によるイメージの測定—その理解と実施の手引き』川島書店
- 王婉莹(2005a)『日本語学科における日本語学習者の動機づけについて』『国文白百合』36、75-85。
- 加賀美常美代・守谷智美・岩井朝乃・朴志仙・沈貞美(2008)「韓国における小・中・高・大学生の日本イメージの形成過程—9分割統合絵画法による分析から—」『異文化間教育』28、60-73。
- 加賀美常美代・守谷智美・楊孟勳・堀切友紀子(2009)「台湾の小・中・高・大学生の日本イメージの形成—9分割統合絵画法による分析—」『台湾日本語文学報』第26号、285-308。
- 郭俊海・大北葉子(2001)「シンガポール華人大学生の日本語学習動機づけについて」『日本語教育』110号、130-137。
- 国際交流研究所(2002)『中国の1万2967人に聞きまし

- た』日本僑報社
- 呉正培(2005)「韓国人大学生の日本人に対するステレオタイプ研究—日本語学習との関係—」『文化』第 69 巻 第 1・2 号, 80-93.
- 呉正培(2008)「日本語学習者の日本人イメージに見られる特徴とその形成要因—韓国における学習者と非学習者との比較—」『世界の日本語教育』18,35-55.
- 瀬川昌久(1995)「親族の網の目にいきる」『暮らしがわかるアジア読本中国』河出書房新社
- 岡田茂人(2001)『中国人の心理と行動』NHK ブックス
- 成田高広(1998)「日本語学習動機と成績との関係—タイの大学生の場合—」『世界の日本語教育』8,1-11.
- 樋部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩(1995)「大学生の日本語学習動機に関する国際調査—ニュージーランドの場合—」『日本語教育』86 号, 162-172.
- 長谷川典子(2007)「韓国製テレビドラマ視聴による態度変容の研究—異文化間教育の視点から—」『異文化間教育』25, 58-73.
- ホッフア,B./橋本弘子(訳)(1994) 異文化理解とコミュニケーション』岩波新書
- 村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士 (2007)『SPSS による多変量解析』オーム社
- 劉志明(1998)『中国のマスメディアと日本イメージ』株式会社エピック
- 李洋陽(2006)「中国人の日本人イメージに見るメディアの影響—北京での大学生調査の結果から—」『マス・コミュニケーション研究』No.69, 22-40.
- 渡辺文夫(2001)『異文化接触の心理学—その現状と理論—』川島書店
- Gardner,R.C.& Lambert,W.E. (1959) "Motivational Variables in Second Language Acquisition" *Canadian journal of psychology*.13(4), Toronto, Canada: University of Toronto Press, 266-272.
- 蔣立峰(2006)「培育两国人民的亲近感对巩固中日友好的根基意义重大」『日本学刊』第 10 号,46-51.
- 蔣庆棠(2006)「关于日语专业学生日语学习动机的调查分析」『常州工学院学报(社科版)』第 24 卷第 6 期 117-120.
- 彭品,王婉莹(2003)「关于专业学生与非专业学生的日语学习动机与学习效果的研究」『清华大学教育研究』第 24 卷增 1 期,117-121.
- 王婉莹(2005b)「大学非专业学生日语学习动机类型与动机强度的定量研究」『日语学习与研究』2005(3),38-42
- 中国国家教育部高等学校外语专业指导委员会日语组(2003)『高等院校日语专业基础阶段教学大纲』2003 年、大连理工大学出版社

か そげん/お茶の水女子大学大学院 比較社会文化学専攻  
xiasuyan88@yahoo.co.jp

## The Image of the Japanese among Chinese Learners of the Japanese Language: With a Focus on Its Connections with the Japanese Learning Motivation

XIA Suyan

### Abstract

This study aims to explore the image of Japanese people held by learners of the Japanese language in Mainland China and its relevance to their motivation of learning Japanese by carrying out studies in the form of questionnaires to those people. The result of the factor analysis shows that the image of the Japanese consists of six factors: "openness", "congeniality", "diligence", "tolerance", "advancement" and "intimacy of interpersonal relationships". The Japanese learning motivation is characterized by seven factors, namely "understanding the Japanese cultures", "improving their Japanese language", "interest in the Japanese language", "admiration of Japan", "study and work in Japan", "practical purpose" and "having links with Japan-related people". Among the seven factors, "admiration of Japan" and "having links with Japan-related people" are the two leading factors that help improve the image of Japanese people among Chinese learners of the Japanese language.

[Keywords] China, learners of Japanese as a specialty, image of the Japanese people, Japanese learning motivation

(Comparative Studies of Societies and Cultures, Graduate School, Ochanomizu University)